

太田ポンカン(おおたポンカン)

登録番号：第413号

育成者：太田敏雄

登録年月日：昭和58年5月30日

来歴：庵原ポンカンの枝変り

登録者：清水市農業協同組合（静岡
県清水市庵原町1）

特性

■栽培特性

樹勢はやや弱く、葉はやや小さい、ポンカンとしては枝が開きやすく、結果性は良好で高接ぎの翌年からもよく結実する。したがって、豊産性である。しかし、結果過多になると、樹勢が低下して、結果母枝の発生が少なく、充実も悪くなり旧葉が黄化して落葉し、隔年結果が激しくなる。このような樹勢低下の防止策として、①樹勢を旺盛にする（腐熟堆肥の施用、敷わらによる表層細根の維持、施肥は分施回数を多くして細根を傷めないようにしながら施肥量を多くする）。②樹体を若返らせる（剪定は切り返しを多くして、小枝の整理をして、旧、新葉のバランスを4対6程度に保つことを心がける。③結実制限をする（早期摘果を十分に行い、果実の初期肥大を旺盛にする）。

■果実特性

果実の特性は果面がポンカンとしては滑らかで、果梗部の突出は少ない低腰系であるため、腰が低く果形指数は122程度で、果実の大きさは120から160gぐらいである。果実の熟期は11月下旬には8から9分着色になり、糖は11から12度程度、酸含量は低い年で1.1、高い年で1.4程度である。したがって、酸含量で収穫期が左右され、低い年は12月上旬から収穫が行なわれ、高い年は12月中旬になる。主な出荷期は12月中旬から1月いっぱいである。外観はポンカンとしては美しく、種子も少なく、ポンカン特有の香りがある。

■病虫害抵抗性

温州ミカンとほぼ同等で特別に問題となる病害虫はないが、ヨコバイの被害が生じやすく、この防除を徹底する必要がある。

■地域適応性

年内出荷を目標にする場合は、年間平均気温17℃程度を必要とし、12月下旬から1月出荷であれば16.5℃程度であろう。あまり温暖な地帯では浮皮果が生じやすい。

(廣瀬和榮)